

EUの成人教育プログラムGRUNDTVIGの展開

—デンマークの成人教育機関の関わりに着目して—

佐藤裕紀

(早稲田大学大学院)

【要旨】

EUの成人教育プログラム GRUNDTVIG は、2007 年から 2013 年までに実施されている生涯学習プログラムの成人教育部門の名称である。本稿では GRUNDTVIG に対するデンマークでの中間評価、またデンマークの教育機関が関わるプロジェクトの特徴を考察した。考察の結果、GRUNDTVIG に関わった教育機関の担当者の評価は肯定的なものであり、国内の他のプログラムへの相乗効果をもたらすものとして評価されている。プログラムの期間、内容、申請の方法に対しても満足しているとの結果が出ている。但し、課題としては特別な教育ニーズを持つ人々への配慮、研究者間のネットワークの構築、予算の拡充があげられている。さらに社会的不利益層に対するプログラムも実施されているが、伝統的な自由成人教育機関であるフォルケホイスコーレの主催者としての参加は見られないことが明らかになった。

1. はじめに

本稿の目的は、EUの生涯学習プログラム (Lifelong Learning Programme:LLP)における成人教育部門である GRUNDTVIG の、デンマークでの中間報告を分析し、その動向や課題を明らかにすることである。そして、生涯学習先進国であるデンマークがどのようにこのプログラムに関わっているのかを明らかにすることである。デンマークには 19 世紀よりこの GRUNDTVIG の名称の由来であるニコライ・F・S・グルントヴィの教育思想を受けた成人向けの学校フォルケホイスコーレ(Folkehøjskole)が存在している。GRUNDTVIG の目的等をみると、それは一見フォルケホイスコーレで重視されてきた人間性の発達や社会的課題への対応といった特徴がみられる。そのため、このフォルケホイスコーレをはじめとした、デンマークの成人教育機関が、どのように GRUNDTVIG に関わっているのかを考察することは、GRUNDTVIG の特徴や、実践における現状を分析する上で意義深く、また多様なデンマークの成人教育の現状を把握する上でも示唆があると考えられる。研究の方法としては、EU およびデンマーク教育省の発行している各種資料を分析し、デンマーク成人教育協会(Dansk Folkeoplysnings Samråd)やフォルケホイスコーレの関係者にインタビューを実施した。

構成としては、まず EU の GRUNDTVIG プログラムの概要を示し、次いで GRUNDTVIG において、デンマークの機関が関わったプロジェクトの内容を紹介する。その上で、デンマークにおける GRUNDTVIG に対する中間報告の内容を分析する。

2. EU の成人教育プログラム GRUNDTVIG の概要

EU は、知識基盤型社会において国際社会を牽引していくための、戦略的な手段として生涯学習をとらえている。2007 年に開始された生涯学習プログラムは、その EU にとって最重要な資金提供プログラムと位置づけられている¹⁾。実施機関としては教育視聴覚文化エグゼクティブエージェンシー(Education, Audio Visual and Culture Executive Agency; EACEA)が担っており、全体の計画、提案、評価を実施する。そして「生涯学習プログラム」に参加する各国には、国家エージェンシー(National Agency)が設けられ、各プロジェクトの運営は委ねられている。現在のところ参加国の数は徐々に拡大傾向にあり、31 カ国が参加している²⁾。

次に「生涯学習プログラム」の構造を見ていく。各教育段階でプログラムは区分されており、中等教育までが COMENIUS、高等教育が ERASMUS、職業訓練が LEONARDO DA VINCI、そして職業訓練以外の成人教育が GRUNDTVIG という形に区分されている。これら以外にも、教育区分を横断する形で、政策の開発、言語学習、ICT、普及のプロジェクトや、欧州統合に関する研究の推進のために Jean Monnet Action が位置づけられている。本稿では、成人教育部門の GRUNDTVIG に焦点を当てて論じることとする。

GRUNDTVIG の目的は、成人の知識と技能を向上させ、精神的な面も含めて雇用価値や潜在的な能力を高めることとされている³⁾。GRUNDTVIG は、成人教育に関わる全ての組織と個人を対象としている。具体的には、学習者及び教員やスタッフ、学校、関連団体、NGO、図書館、博物館、組合、ボランティアグループ、事業者、調査研究機関といった様々な組織である。そして地域から国規模の機関までをその対象としている。また、「基礎教育を十分に受ける機会に恵まれなかった人々、社会的・経済的に不利益な立場に置かれている人々に焦点を当て優先的にプログラムを実施する」としている⁴⁾。

EU のプログラムにおいては、実証的な評価に基づく政策決定への志向が強まり、事業の評価において、数値目標の設定がなされている⁵⁾。それはこのプログラムにおいても同様である。GRUNDTVIG における目標として、2013 年までに新たに成人教育への参加者を 2 万 5 千人増加させること、成人教育の分野で 1 年間に 7 千人以上の多国間の人的移動を実現させることとしている⁶⁾。それら以外にも成人教育機関の連携の促進や実践の向上、情報技術の活用、そして従来成人教育から離れていた人々（特に高齢者や低学歴者）を成人教育に参加させるといった目標が挙げられている。

資金拠出プログラムである GRUNDTVIG のプロジェクトサイクルを見ていくと、次のようになる。まず①自分たちのプロジェクトに資金を拠出して欲しい機関・団体が助成金申請書類（プロジェクト案）を提出する。②その申請書類が審査、査定される。③結果が発表され、資金拠出とプロジェクト実施の契約が交わされる。④プロジェクト実行のプロセスがモニタリングされる。資金は初期、中間報告書の提出後、最終報告書の提出後に分けて拠出される。

それでは、実際には GRUNDTVIG ではどのようなプロジェクトが実施されているのだろうか。2010 年のガイドには以下のようにプロジェクトが分類されている。なお、プロジェクトの種類は 2007 年と比べて増加している。

表 1 GRUNDTVIG のプロジェクトの種類と概要(2010 年段階)

名称	期間	概要
準備訪問活動	1-5 日間	GRUNDTVIG のプログラムへの参加を希望する機関が、協働するための他国の機関を探すプロジェクト。また協働機関を探すセミナーへの参加等を行うプロジェクト。
成人教育スタッフの交換訪問活動	1 日-12 週	成人教育スタッフが他国の成人教育機関で就労する機会を設けるプロジェクト。
アシスタント	12-45 週	成人教育スタッフが他国の成人教育機関で、より長期に渡り就労し責任ある職務を行うプロジェクト。
成人教育スタッフの実地研修、訓練	5 日-6 週	成人教育スタッフが自身の専門の実地研修を他国で受けるプロジェクト。
ワークショップ	5-10 日	成人学習者が他国での成人教育の催し、セミナーに他の国から来た人々と共に参加することを支援するプロジェクト。
学習パートナーシップ	2 年	成人教育機関が、共通の課題やテーマで学習教材、教育プログラムの格子づくりを行うプロジェクト。
シニアボランティア	2 年	高齢者ボランティアを 2 国間で交換派遣するプロジェクト。
多国間プロジェクト	1-3 年	多国間（最低 3 カ国）の成人教育機関で共通テーマの活動を実施し、知見を共有するプロジェクト。
多国間ネットワーク	3 年	多国間（最低 10 カ国）で成人教育機関の結びつきを強化するプロジェクト。
付随した活動	最大 1 年	GRUNDTVIG の活動をサポートするプロジェクト。

European Commission(2010)*Lifelong Learning Programme LLP GUIDE 2011 PART1* より筆者作成。

まず、準備訪問活動は、GRUNDTVIG への参加を希望し他国でのパートナーを求める機関が、他国の機関を訪問することや、パートナーを探すセミナーに参加するプロジェクトである。成人教育スタッフの交換訪問活動は、他国の成人教育機関で就労するプロジェクトであり、アシスタントとの差異は、後者がより長期であり責任のある業務を担う点である。成人教育スタッフの実地研修では、他国で自身の活動に関する研修を受けるプロジェクトであり、ワークショップは、学習者が短期間（5-10 日）他国の成人教育プログラム、セミナーに参加する機会を設けるプロジェクトである。シニアボランティアは、高齢者ボランティアを 2 国間で交換訪問、活動をさせるプロジェクトであり、学習パートナーシッ

ブ、多国間プロジェクト、他国間ネットワークはより長期間において多国間で協働の活動を行うプロジェクトである。

より具体的にプロジェクトの内容を見ていきたい。ここでは、『GRUNDTVIG サクセスストーリー』(GRUNDTVIG Success Stories)に掲載されている事例を紹介していく。上記の分類では多国間プロジェクトにあたる事例として、例えば、病院でのe-ラーニングを促進させるプロジェクトには、オーストリアとスペインから2機関、そしてドイツ、フランス、ポーランド、スイスから各1機関の8機関が参加している⁷⁾。3年間実施されたこのプロジェクトでは、病院に入院している患者の学習サポートにe-ラーニングが導入され、リハビリテーションと社会復帰に向けた各段階に応じた学習プログラムを提供した。

他にも、学習パートナーシップの事例として、収監者の退所後のキャリア形成のための個別学習システムづくり、低学歴の移民の女性をエンパワーメントするキットの作成、成人のための金融教育プログラムづくり、移民が欧州の言語や文化を学習するためのプログラム、高齢者の経験・知識を活用するプログラム等が掲載されている。

3. デンマークの機関の GRUNDTVIG への関わり

では、デンマークの成人教育に関わる機関は、GRUNDTVIG に対してどのような関わりをしているのであろうか。ここでデンマークをとりあげる理由としては、次のようなものがある。GRUNDTVIG というプログラムの名称は、デンマークにおいて19世紀前半より存在し、成人であれば無試験、無資格で誰でも参加できる学習機関フォルケホイスコーレ(Folkehøjskole)の教育思想を形づくったニコライ・F・S・グルントヴィ(1783-1872年)に由来する。このフォルケホイスコーレを始めとしたデンマークの成人教育は、生活協同組合運動や労働運動といった社会運動とも密接な関係を持っており、その実践と伝統は、リンデマンやハッチンスを始め多くの成人教育関係者(研究者)に高く評価され影響を与えている存在であった⁸⁾。しかし、近年のフォルケホイスコーレの現状は、一時期の勢いやその社会的な側面を失い、他の成人教育機関との間で限られた成人学習者を奪い合う状況も生まれており、経営状態も決して良いとはいえない状況が浮かび上がってきている⁹⁾。さらに、例えば2007年の『デンマークの生涯学習戦略(Denmark's strategy for lifelong learning-Education and lifelong skills upgrading for all)』をはじめとしたデンマーク政府の生涯学習の戦略でも、職業訓練を重視しており、資格や就業に直接的には結びつかないフォルケホイスコーレに対しては、財政面での支援は減少、厳格化する一方で、運営面に関しての干渉を強めている¹⁰⁾。そのような中で、EUの実施するGRUNDTVIGに、デンマークの成人教育、なかでもフォルケホイスコーレの関わりを見ていくことは、デンマークのフォルケホイスコーレ、成人教育をめぐる状況を把握する上で意義のあることであると思われる。

EUは、毎年プロジェクトの報告書(Project report)やプロジェクト大要(Project compendia)を発行している。このプロジェクト大要は多数行われているGRUNDTVIGのプロジェクトの中でも、欧州レベルでの助成金を取得したプロジェクトが掲載されている¹¹⁾。2007年にはGRUNDTVIGのプロジェクト大要には全体で83件が掲載されている。その中でデンマークの機関が関わったプロジェクトは8件である¹²⁾。2008年には74件の内、13件である¹³⁾。そして2009年には63件の内、8件であった¹⁴⁾。例えばドイツは46

機関、イタリアは 37 機関、オーストリアとスペインは 28 機関、次いでオランダやルーマニアは 20 機関以上が多様なプロジェクトに参加し大要に掲載されている一方で、掲載が 1 件以下の国もある。また 2007 年より 2009 年まで、GRUNDTVIG のプロジェクトの中で、欧州レベルでの助成金を得て大要に掲載されているプロジェクトの数が減少している。

次いで、2009 年までの GRUNDTVIG のプロジェクト大要に掲載されたプロジェクトの中でデンマークの機関が関わった事例の内容について検討していく。表 2 は、2009 年にデンマークの機関が参加したプロジェクトの事例である。

表 2 2009 年にデンマークの機関が参加した GRUNDTVIG のプロジェクト

タイトル	期間	参加機関	概要
美術館が成人教育スタッフと出会う	1 年	デンマーク美術館協会と他国 3 機関	美術館と成人教育スタッフの間のギャップを埋め、相互に活用できるよう促進。
はい、私たちは出来ます	2 年	コペンハーゲン短期大学と他国の 4 機関	ダウン症の人々の学習プログラムの制作。
アマチュア文化の学習成果	1 年 2 ヶ月	市民活動センターと他国 3 機関	学習者の学習評価と成人教育機関の評価モデル制作。
周縁化に抵抗するための学習	2 年	成人教育センターと他国の 6 機関	移民等の周縁層を包摂するための学習プログラム制作。
健康ボックス：成人教育における健康課題	2 年	オーフス社会ヘルスケア短期大学と他国の 5 機関	社会的周縁層の抱える身体、精神的健康課題への対応の手法の開発。
高学歴高齢者と若年の退学者	2 年	VIA 短期大学と他国の 6 機関	高学歴高齢者をメンターとして活用するプログラムの開発。
収監者の学習と就労を統合する革新モデル	2 年	コペンハーゲン刑務所と他国の 6 機関	収監者の社会復帰のための学習・就労プログラムの開発。
GRUNDTVIG コースコーディネーターの国際ネットワーク	3 年	オーフス社会ヘルスケア短期大学と他国の 19 機関	成人教育のコーディネーターの情報共有、交換のためのネットワーク構築。

出典：European Commision(2010) *Compendium 2009: Lifelong Learning Programme, Grundtvig Adult education and other educational pathways* より筆者作成。

ここに示したのは 2009 年のプロジェクト大要に掲載された事例である。まず美術館や刑務所、短期大学や成人教育センターと非常に多様な機関が各プロジェクトに関わっている事がわかる。そして 2009 年までの大要に掲載された GRUNDTVIG プロジェクトにお

けるデンマークの参加事例を見ると、その内容は労働市場の要求する被雇用能力や技能を向上させるプロジェクトよりも、社会的・経済的な不利益層に対するプロジェクトの件数が多いことも明らかになった。特に、移民の社会統合、高齢者の社会参加を促進させるプロジェクト、収監者の社会復帰、身体や精神的に疾病、障害を抱えた人々に対する社会参加の促進を意図したプロジェクトが多い傾向がみられた。

さらに、GRUNDTVIG は 2010 年よりそのプロジェクトの種類を拡大させており、表 3 から表 6 に示したのは、2011 年の GRUNDTVIG ワークショップにおいてデンマークの機関が関わった事例である。この GRUNDTVIG ワークショップは、実施国以外の事業参加国の成人個人が、参加希望を EU に申請すると、その旅費、滞在費等が支給されるプロジェクトである。その支給にあたっては、3 カ国以上から参加希望がなければ支給はされず、また実施国の参加者も助成の対象とはならない。

表 3 GRUNDTVIG ワークショップのデンマークでの事例①

タイトル	自転車が好き
対象	関心のある人（自転車の乗り方を知っている人）
主催	小さな惑星
期間	2011 年 5 月 10 日-2011 年 5 月 18 日
活動内容	自転車がどれだけ健康的であり経済的な利点もあること、そして気候変動に対してどのように生活を営んでいくかについて考え共有する。地方の美しい地域を自転車でツアーに行くこと、未来の自転車の描く事、自転車の使い方について考えより使用方法を拡大させる事、地方の村の人々との自転車を用いた交流を実施する。

出典：European Commision(2010)GRUNDTVIG WORKSHOPSCATALOGUE
2010-2011 より筆者作成。

事例①では、小さな惑星という名前の市民団体が実施した 9 日間のプロジェクトである。これは自転車のある生活を考え、より世の中に提案していくことを意図したプロジェクトである。地方の田舎町を訪問しながら、現地の人々との交流も含めて自転車のある生活に関して考える多様なワークショップを実施している。

表 4 GRUNDTVIG ワークショップのデンマークでの事例②

タイトル	「それ」を写す
対象	公教育の外にいる 16-30 歳の若者 60 歳以上の高齢者
主催	Jammerbugt 補習学校
期間	2011 年 4 月 16 日-2011 年 4 月 25 日
活動内容	世代間・異文化間の相互理解を促進させるための、写真を活用したワークショップ。

出典：European Commision(2010)GRUNDTVIG WORKSHOPS

事例②は、世代間の相互理解と、異文化間の相互理解の対話を促進させることを目的としたプロジェクトである。若年層と高齢者層が 26 名集められ、半数は 60 歳以上であり、残りは半数は若者であった。そして 20 名は他国からの参加者であり、6 名だけがデンマーク人である。そのような人々で、フォーマルな学習方法ではなく、アートやワークショップを活用した活動を行った。チームビルディングや、スポーツ、写真のワークショップやロールプレイ、国際理解の映画鑑賞、ディスカッションを行うことや博物館を訪問するなど 10 日間のプログラムを実施した。

表 5 GRUNDTVIG ワークショップのデンマークでの事例③

タイトル	デンマーク文化におけるグルントヴィの影響と学習におけるグルントヴィのビジョンー共に歌う伝統に着目して
対象	グルントヴィの学習に関する思想、民主主義、デンマーク文化への影響、教会、歌に関心がある人
主催	岬 (Næsset) の家
期間	2011 年 5 月 8 日-2011 年 5 月 16 日
活動内容	グルントヴィの思想を強く受けているフォルケホイスコーレの訪問、協同組織で運営される村や、グルントヴィ教会、デンマーク議会等を回る。

出典：European Commision(2010)GRUNDTVIG WORKSHOPS

CATALOGUE2010-2011 より筆者作成。

事例③は、デンマークの成人教育、教育全般そして社会に大きな影響を与えたグルントヴィに関するワークショップである。デンマークでは、教会やフォルケホイスコーレ、その他の日常生活においてグルントヴィも作った歌も含めて、皆で歌う文化がある。このワークショップでは、多くの学校や関連施設、首都であるコペンハーゲンや近郊にあるグルントヴィ教会等を巡る。

表 6 GRUNDTVIG ワークショップのデンマークでの事例④

タイトル	自然素材、伝統と未来の素材でつくる籠
対象	籠細工の工芸品やその文化、伝統に関心のある人 特別な教育ニーズのある人、高齢者、社会的な周縁に置かれている人
主催	オーデンセタ方学校
期間	2011 年 5 月 21 日-2011 年 5 月 29 日
活動内容	籠細工の伝統や文化を学び、製作する。 また現代的な籠に関しても学び、ゲスト講師を招き、美術館等へも見学に行く。

出典：European Commision(2010)GRUNDTVIG WORKSHOPS

CATALOGUE2010-2011 より筆者作成。

事例④は、自然素材、また伝統的、そして現代の籠工芸品に関するワークショップである。籠工芸品の文化、伝統や歴史に関して学びながらワークショップで制作を行い、現代の作品に関してもゲスト講師を招きながら学ぶ。そして美術館等にも見学に行く。このオーデンセタ方学校(Aftenskole)も、教育省による制度的な分類では、フォルケホイスコーレと同じ自由成人教育の1種類の学校群である¹⁵⁾。

ここまで 2011 年に実施された GRUNDTVIG ワークショップの事例を見てきた。その共通点としては、直接的に就業につながる被雇用能力や技能を高めるのではなく、人間性を高めたり、社会的な課題、背景や必要性に対応したワークショップが実施されていることがわかる。またその方法も、教室の中で机に座って講義を受けると行ったものではなく、地方の田舎町や、学校を訪問したり、美術館に行ったり、地域の人々の交流を行ったりと生活環境とつながった学習活動を実施している。また、写真撮影やスポーツ、チームビルディングといった活動を重視していることもわかる。主催している団体、機関も市民団体や決して大きくはない組織、また自由成人教育に分類される学校群も参加していることが明らかになった。

また、GRUNDTVIG の名称の由来でもあるグルントヴィの教育思想を受けて設立されたフォルケホイスコーレは、プロジェクト主催者として参加していなかった。但し、グルントヴィのヴィジョンに関するワークショップで学習の会場としては使用されているなどの関与は見られた。GRUNDTVIG の主旨からすると、フォルケホイスコーレの主旨にも共通性が見られるため、参加がない状況の理由を尋ねると¹⁶⁾、「フォルケホイスコーレ側にマンパワー・人材が不足しており、通常のプログラム以外の GRUNDTVIG のプログラムを申請し実行していくだけの余裕がない」現状が理由としてあげられた。また、「申請をしても、EU や政府は成人教育において現在、基本的には職業訓練等を重視しているために、なかなか通らないのでは」という声も聞かれた¹⁷⁾。

では、この GRUNDTVIG はデンマークでどのように評価を受けているのであろうか。

4. デンマークでの GRUNDTVIG への中間評価

現在、生涯学習プログラムにおける GRUNDTVIG も後半にさしかかっており、それまでの中間評価が報告書として出されている¹⁸⁾。デンマークにおいては、2010 年に、GRUNDTVIG に対する中間評価が為されて報告書としてあげられている¹⁹⁾。この報告書は教育省が民間調査会社に作成を依頼して調査、執筆された報告書である。ここでは、デンマークでの GRUNDTVIG の評価として、その報告書の内容を分析していきたい。

まず、プロジェクトに関わった各機関の担当者は、GRUNDTVIG に対して肯定的な評価をしていることがわかった。多くの担当者は、GRUNDTVIG のプロジェクトは、デンマーク国内での成人教育プログラムを補完する機能があるとしている。そしてプロジェクトの期間、内容、申請方法等にも満足しているとの声が多数であった。参加者に対しての効果として、専門性また人間的な質の向上の面で良い影響があるとし、異文化間でのコミュニケーション力の向上が特に強調されている²⁰⁾。

組織レベルにおける効果に関しても、組織にヨーロッパ的な視野、視点をもたらしたとされる声が多い。他の機関との連携、協力を促進させる効果があったとし、既存の部門、

分野の領域を乗り越える協働の形への一步となったことを評価している。他機関と、手法、学習教材、手法の開発等のアイディアを交換することができることの有益性も挙げられた。

さらに、長期的な影響力として、プロジェクトに参加した参加者、機関は他の国際的なプロジェクトにも参加していくことが促進されていくだろうとしている。

課題や改善の余地としては、GRUNDTVIG に対する資金の拡充を求めていることと、書類の申請から選考、承認までの期間について挙げられた。さらに、GRUNDTVIG に対する潜在的な学習ニーズや参加ニーズを持っている人々、特別なニーズを持つ人々に対してより焦点を当てるべきこと、教員の多国間での移動性を高めることが提案されている²¹⁾。

おわりに

本稿では、EU の生涯学習プログラムの成人教育部門である GRUNDTVIG のデンマークにおける参加の状況の分析と中間評価への考察を行ってきた。

その結果、デンマークにおける GRUNDTVIG のプロジェクトは、プロジェクト大要を分析したかぎりにおいて、労働市場の要求する被雇用能力や技能を向上させるプロジェクトよりも、社会的・経済的な不利益層に対するプロジェクトへの傾斜が見られた。特に、移民の社会統合、高齢者の社会参加を促進させるプロジェクト、収監者の社会復帰、身体や精神的に疾病、障害を抱えた人々に対する社会参加の促進を意図したプロジェクトが見られた。その傾向は 2010 年以降に拡大して開始された GRUNDTVIG ワークショップにおいても同様であった。主催している団体、機関も市民団体や決して大きくはない組織、また自由成人教育に分類される学校群も参加していることが明らかになった。

但し、大要を分析した限り、GRUNDTVIG の名称の由来でもあるグルントヴィの教育思想から社会運動と共に設立されていたフォルケホイスコーレの同プロジェクトへの主催者としての参加は見られなかった。但し、場所の提供等で関与はしていることも明らかになり、参加がない原因としては、フォルケホイスコーレ側にマンパワーが不足している状況が明らかになった。

次いで、中間評価では、プロジェクトに関わった各機関の担当者は、GRUNDTVIG に対して肯定的な評価をしていることがわかった。多くの担当者は、GRUNDTVIG プログラムは、デンマーク国内での成人教育プログラムを補完する機能があるとし、プロジェクトの期間、内容、申請方法等にも満足しているとの声が多数であった。参加者に対する効果として、専門性また人間的な質の向上、特に異文化間でのコミュニケーション力の向上が強調された。組織レベルにおける効果に関しても、組織にヨーロッパ的な視野、視点をもたらしたとされる声が多い。さらに、長期的な影響力として、プログラムに参加した参加者、機関は他の国際的なプロジェクトにも参加していくことが促進されていくだろうとしている。課題や改善の余地としては、GRUNDTVIG に対する資金の拡充を求めていることと、研究者間のネットワーク構築の必要性、特別なニーズを持つ人々に対してより焦点を当てるべきことが提案されている。

今後の研究の課題としては、各プロジェクトの詳細、関わっている機関の詳細を把握、考察し、デンマークのフォルケホイスコーレ以外の自由成人教育機関や、他機関といった全体像の把握、実践における特徴に関して研究を続ける必要がある。さらに GRUNDTVIG の評価に関しても、今回は教育省発行の資料を分析したことにとどまっており、より多面

的な視点から分析する必要性があり、今後の課題としたい。

注記・引用文献

- 1) 澤野由紀子「EUの生涯学習政策とガイドライン」『日本生涯教育学会年報』第31号、pp.167-186、2010年、p.177。
- 2) European commission(2012)*Lifelong Learning programme Guide 2012*
(http://ec.europa.eu/education/llp/doc/call12/part1_en.pdf、2012年7月5日参照)
- 3) 同上。
- 4) 同上。
- 5) 澤野由紀子、前掲著、p.177-183。
- 6) European commission ウェブサイトより、
(http://ec.europa.eu/education/lifelong-learning-programme/index_en.htm、2012年7月5日参照。)
- 7) European Commission(2007) *GRUNDTVIG Success Stories*
(http://ec.europa.eu/dgs/education_culture/publ/pdf/grundtvig/success-stories_en.pdf、2012年7月5日参照。)
- 8) Hutchins R.Maynard, The Learning Society(Encyclopedia Britannica, Inc.,1968)および Eduard C.Lindeman, The Meaning of Adult Education(New Republic, Inc.,1926)にはデンマークの成人教育に対する賛辞や、自身の考えに影響を与えた事例として紹介されている。
- 9) 佐藤裕紀「デンマークの成人教育機関フォルケホイスコーレの設立と変遷」『比較・国際教育学論集』第3号、早稲田大学大学院教育学研究科比較・国際教育学研究会、2009年、pp.35-60。
- 10) 佐藤裕紀「デンマークの生涯学習戦略に関する一考察-『デンマークの生涯学習戦略』における自由成人教育の戦略に着目して」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊』第19号-2、2011年、pp.107-117。
- 11) EACEA ウェブサイトより、
(http://eacea.ec.europa.eu/llp/results_projects/project_compendia_en.php、2012年8月22日参照。)
- 12) European Commission(2008)*Compendium2007:Lifelong Learning Programme, Grundtvig Adult education and other educational pathways* より。
- 13) —(2009) *Compendium2008:Lifelong Learning Programme, Grundtvig Adult education and other educational pathways* より。
- 14) —(2010) *Compendium2009:Lifelong Learning Programme, Grundtvig Adult education and other educational pathways* より。
- 15) 佐藤裕紀(2011) 前掲書を参照。
- 16) 2011年8月と9月にデンマーク成人教育協会担当者、International people's college 校長、Askov højskole 校長へのインタビューを実施した。
- 17) 同上。
- 18) NIRAS(2010)*National report on the Lifelong Learning Programme(LLP)implementation 2007-2009 in Denmark INTERIM EVALUATION*, p3。
- 19) 同上。
- 20) 同上。
- 21) 同上。